

【根羽村】1人1台端末の利活用に係る計画

2026年1月

項目	内容	※留意事項
①1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが個別最適な学び、協働的な学びを実現する上で、1人1台端末を始めとするICT環境を活用することは有効である。離れた場所においても、グループで協働作業を行ったり、お互いの意見を共有することができ、様々な考え方に触れることやコミュニケーション能力、問題解決能力を向上させることができる。 ・調べ学習、意見交換、プレゼンテーションなどをICTで支援し、探究的な学びを深化させる。 ・家庭学習や休校時に可能なオンライン学習環境 ・教員がICTツールを活用し、児童生徒の個々の学習状況を把握したり、支援することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領及び中央教育審議会答申「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（令和3年1月）等の内容並びにこれらに引き続く政府の議論も踏まえ、1人1台端末及び高速大容量の通信ネットワーク等を通じて実現を目指す学びの姿を記載する。
②GIGA第1期の総括	<ul style="list-style-type: none"> ・GIGA第1期では、児童生徒が端末を活用することで、インターネットを通じた調べ学習や、学習用ソフトを活用し、児童生徒が自ら課題を見つけ、探究的な学びをある程度実施することができた。 ・端末の導入に併せて校内ネットワーク環境を整備した。 ・各教室に大型提示装置（電子黒板）を整備した。 ・学校に統合型校務支援システム（C4th）を整備した。 ・学校にICT支援員を配置した。 ・デジタル教科書や学習用ソフトを導入したが、教科によっては端末の積極的な活用まで至っていない場面も見られた。ICT支援員の活用と教職員の研修機会を増やすことで解決を図っていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・①も念頭に、令和5年度までの間にGIGAスクール構想の実現に向けて実施してきた端末と通信ネットワークの整備や、これらを活用した学びの実践のための取組等の総括を行い、その結果を記載するとともに、明かになった課題については、その解決策とともに記載する。
③1人1台端末の利活用方策	<ul style="list-style-type: none"> ・共同編集ツールなどを活用したグループワーク等により、児童生徒のコミュニケーション能力の向上や協働的な学びを一層進める。 ・学習進度や理解度に応じたドリル等のコンテンツを活用し、個別最適な学びを提供する。 ・端末で児童生徒の意見、解答、作品などを共有して感想を言い合ったり、評価し合ったりすることで多様な考えに触れることができる。 ・子どもたちが自分の学びを調整しながら探究できる自己調整学習を位置づけ、学ぶことの喜びを実感できるようにする。 ・教職員も児童生徒の個々の特性を把握し、適切な支援を行うことができるように、研修参加や授業研究に取り組み、端末を有効に活用する。 ・少人数学級であっても多様な意見や多くの児童生徒と交流ができるよう、オンラインで他校と交流ができる環境を整える。 ・オンラインツールを活用し、臨時休校等の緊急時や不登校児童生徒に対して、オンラインでの授業配信などを行い、子どもたちの学びを保障する。 ・家庭学習が定着するよう、端末の持ち帰りを一層推進し、1人1台端末環境を引き続き維持していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・①及び②を踏まえ、端末の利活用方策を記載する。その際、1人1台端末の活用、個別最適・協働的な学びの一体的な充実、学びの保障の視点に触れて方策を記入する。 ・端末の利活用の前提として、端末の整備・更新により、児童生徒向けの1人1台端末環境を引き続き維持することを明記する。